



TITLE:

京大広報 No. 242

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 242. 京大広報 1982, 242: 283-286

ISSUE DATE:

1982-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209444>

RIGHT:

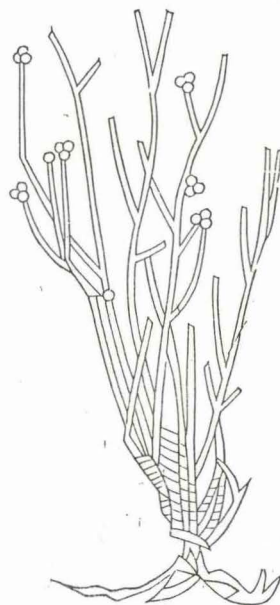
ファイル中には未許諾による非表示部あり.

# 報 大 京

No. 242

京都大学広報委員会

## 同州麻黄



麻黄味苦温微温无毒主中風傷寒頭痛温瘧發表出汗去邪熱氣止欬逆上氣除寒熱破癰堅積聚五藏邪氣緩急風骨痛字乳餘疾止好唾通腠理疎傷寒頭疼解肌洩邪惡氣消赤黑斑毒不可多服令人虛一名卑相一名龍沙一名卑鹽生晉地及河東立秋採莖陰乾

今青 厚朴爲之使惡辛夷石韋陶隱居云今出青州彭城榮陽止汗故也先煮一兩沸去上沫令人煩其根亦止汗夏月雜粉用之俗用療傷寒解肌第一 醫本注云鄭州鹿臺及閩中沙苑阿傍沙洲上大多其青徐者今不復用同州沙苑最良也 今注今用

中年者爲勝開封府歲貢焉 臣等錫等謹按經注論云麻黄君味甘平能治身上毒風癰痺皮肉不仁主壯熱解肌發汗溫瘧治温疫根節能止汗方曰并故竹筒將末撲之又杜燠粉栗粉并根等分末生絹袋盛出汗出即撲手摩之或成式西陽雜俎云麻黄莖端開花孔皮膏多風破微瘳瘳瘳

逐五藏邪氣退熱禦風破微瘳瘳瘳

圖經曰 麻黄生晉地及河東今近京多有之以榮陽中年者爲勝南春生至夏五月則長及一尺已來梢上有黃花結

經史證類大觀本草（柯氏本）の一頁 — 関連記事本文284ページ —

（麻黄の成分エフェドリンは、明治20年（1887）長井長義によって明らかにされ、その後その薬理作用が本文に説く薬効とよく対応することが判明した。）

### 目 次

学生部長の交替…………… 284

部局長の交替…………… 284

&lt;紹介&gt;

薬学部所蔵「本草書」類…………… 284

テレックスの設置…………… 285

訃 報…………… 285

&lt;随想&gt;

金属材料の研究雑感 名誉教授 村上陽太郎… 286

## ＜大学の動き＞

## 部局長の交替

## 学生部長の交替

北川善太郎<sup>じんの</sup>学生部長の任期満了に伴い、その後任として神野<sup>じんの</sup> 博工学部教授（応用固体化学講座担当）が10月16日任命された。任期は、昭和58年10月15日までである。

## 法学部長

道田信一郎<sup>たいじゆどう かなえ</sup>法学部長の任期満了に伴い、その後任として太壽堂<sup>たいじゆどう</sup> 鼎法学部教授（国際公法第一講座担当）が10月22日任命された。任期は、昭和59年10月21日までである。

## ＜紹介＞

## 薬学部所蔵「本草書」類

薬学部の紹介として、すでに有機微量元素分析総合研究施設（本広報No140）、および薬用植物園（本広報No178）をとりあげたが、今回は主として本学部が所蔵する希覯図書「本草書」類を紹介する。

現在本学部に所蔵する古書は約500種類で、一部医学部薬学科創設当時に収集されたものを除けば、大部分は本学部が新設されて後、昭和41年に附属図書館より移されたものである。分類別に言えば、いわゆる本草書類が大半であるが、医書、農書なども多少含まれている。

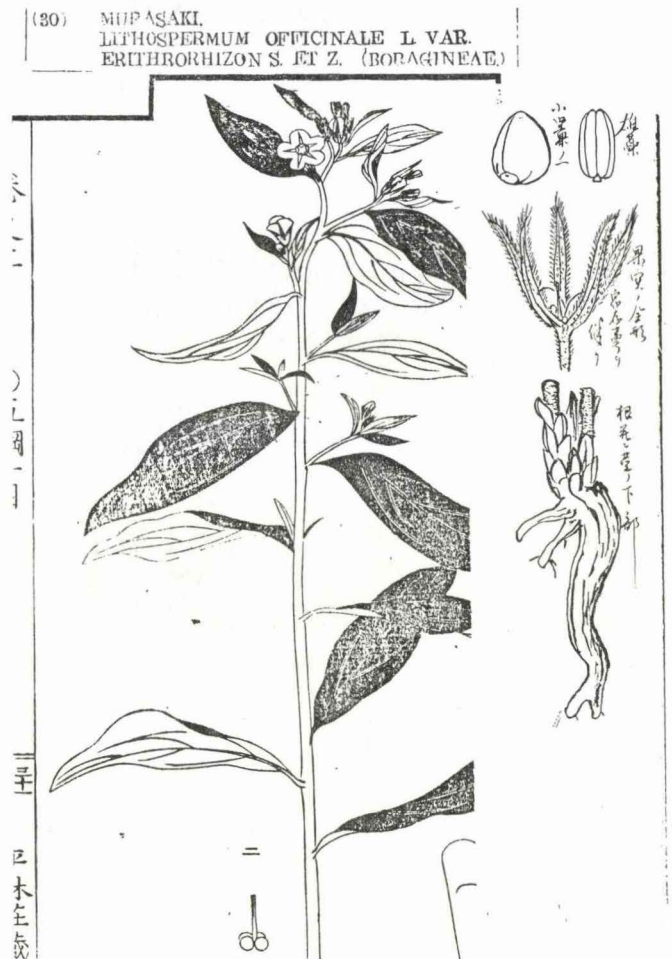
これらの本草書類は、書誌学の研究対象として貴重であることは言うまでもない。しかしそれにも増して重要な点は、近年とくに見直されるようになってきた漢方薬の諸々をうかがい知ることができる最適の資料であるということにある。

本草書には、有史以前より数千年にわたって貯えられた漢薬の経験知識が累積されており、諸薬の薬効や薬性のほか、採集、修治、調剤、配合、分兩、禁忌、服法など、薬物療法に関するあらゆる項目が網羅されている。

このような古代からの経験知識を考証して現代に生かす研究を行なおうとすれば、良質な版本が是非とも必要になる。幸い主流本草の一つ『経史證類大観本草』<sup>けいししやうるい</sup>の柯氏本<sup>たいかんほんぞう</sup>が本学部にあり、これは朱墨の残るとりわけ鮮明な版本

である。このほかにも、證類本草の版本は幾種類かあって、それらは相互に比較研究する上での貴重な資料となっている。

最近、本学部で行なわれた漢薬の有効成分研究の例においても、本草書に記載される薬効の確証



牧野富三郎博士の插画のあるムラサキの図

（右側に毛筆で果実、雄ずい、地下部の形状が、上辺には学名が付されてある。また、別に補注として加筆部分の解説が記され、本植物の形態学的特徴を詳細に知ることができる。）

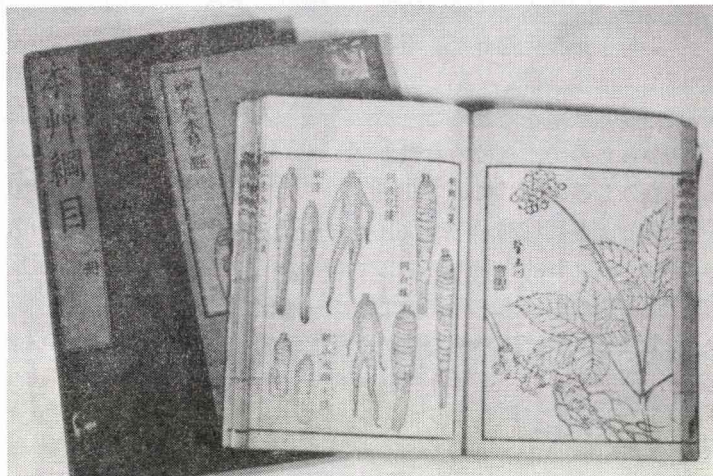


に端を発し、強力な活性成分の単離、解明に至っており、これら本草書類は未開拓の研究の源泉として測り知れないものを有している。

證類本草以外では、明の李時珍撰の『本草綱目』の版本は1603年の江西版を初めとして7種類所蔵しており、このうち稲生若水の校定になるいわゆる若水本は良版であるといわれている。このほか、明・清時代の中国の各種本草書類や、江戸時代に隆盛期を迎えた我が国の本草関係研究書類も所蔵している。なかでも、岩崎常正の『本草図譜』は美麗な大正本であり、また飯沼慾斎の『草木図説』は安政3年刊のものであるが、故牧野富太郎博士の元蔵書で、博士自筆の詳細な插画や注釈が各所に見られる貴重本である。

以上紹介してきたように、各種本草書類を数多く所有している例は、全国の大学の薬学部あるいは薬科大学でも数少なく、これは貴重なコレクションである。

(薬学部)



### テレックスの設置

附属図書館では、このたびテレックス（日本電信電話公社A4型機）を設置し、11月1日から広く学内の利用に供することとなりましたので、下記を参照のうえ利用してください。

記

#### 1 設置場所

附属図書館別館3階（本部構内 尊攘堂南側、閲覧課学術情報掛 内線電話2635, 2642）

#### 2 テレックス・コード番号

5422693 LIBKYU J

(LIBRARY OF KYOTO UNIVERSITY, JAPAN)

#### 3 送信

(1) 申込み手続は、所定の利用申込書による。

(2) 送信に要する経費は、各部局負担（当分

の間、校費負担に限る）とする。

(3) 受付時間 月曜日～金曜日 9時～17時  
土曜日 9時～12時

(4) 送信の範囲は、国外（一部を除く）のみとする。

(5) 送信文は、利用者各自が紙テープにさん孔する。

(6) 通信料の例

アジア・アメリカ 730円/分、ヨーロッパ 830円/分、アフリカ 930円/分  
(通信速度 50 b/s, 375字/分)

#### 4 受信

(1) 受信文は、学内便等により受信者に連絡・送付する。

(2) 受信予定のある場合あるいは取扱上留意を要するものについては、あらかじめその旨を連絡すること。

(附属図書館)

### 訃 報

東 昇（本学名誉教授・医学博士）

10月26日逝去、70歳。本学医学部卒。昭和31年本学ウ

イルス研究所教授就任、同51年退官。その間ウイルス研究所長（昭和38年～40年）を併任。専門はウイルス学及びウィルス電子顕微鏡学。

